

平成26年度第1回古賀市文化芸術審議会議事

日時：平成26年5月27（火）10：00～

場 所：市役所第1庁舎4階第2委員会室

出 席：審議委員 緒方会長、中山副会長、加藤委員、河村委員、古賀委員、坂崎委員、
志賀委員、古川委員、米倉委員、結城委員

行 政 竹下市長、荒木教育長、吉村教育部長

事 務 局 山田生涯学習推進課長、西村文化・スポーツ支援係長、小河、田中主事
力丸サンフレアこが館長、村山歴史資料館館長、中野歴史資料館係長

配布資料

レジュメ、委員名簿、古賀市文化芸術振興条例、古賀市文化芸術振興条例施行規則、
古賀市文化芸術審議会運営規程、傍聴要領、文化芸術振興計画等配布先一覧、計画進捗シート
えがおのつどいチラシ、古賀市文化芸術振興計画、古賀市文化芸術振興計画アクションプラン
第2次古賀市生涯学習基本計画、第2次古賀市生涯学習基本計画ダイジェスト版

(司会：西村文化・スポーツ支援係長)

1 開会のことば（吉村部長）

2 委嘱書交付（市長）

3 市長あいさつ

市長の竹下でございます。まずは、審議会委員をお受けしていただきましたことを心から感謝申し上げます。また、文化芸術振興計画の策定にあたりましては、多大なるご尽力、またご協力を賜りましたことを改めて御礼申し上げます。「今おこすとき」というタイトルをつけられておりますが、御存じのとおりアクションプランの表紙にも掲載されております、昨年、金銅装の馬具という大変すばらしい出土品が出土して、全国的にも古賀の歴史と史跡等非常に注目をされております。先日、5月10日にNHK教育テレビで1時間の特集を組まれてまして、昨年、12月にもクローズアップ現代等で特集を組まれました。現在も、NHKの密着取材を受けておりまして、おそらくこれからますます古賀のこういった文化財等も注目をされてくるだろうということが予測されるわけでございます。本当に日ごろから皆様を筆頭に文化芸術の様々な活動に対しまして、多大なる御理解をいただいております。この場をかりまして改めて御礼を申し上げます。やはり文化芸術を通して市民が様々な活躍の場を自己表現の場、生きがい作りの場、様々な場作りの大きなきっかけになっていく、非常に重要な舞台でございます。行政といたしましても、文化芸術を通して様々な市民の活躍の場を提供していきたいなと思っております。最近、平田オリザさんという方の話を聞く機会がございまして、文化芸術を通してのまちづくりというのはこれから市民の活躍の場作り、そして若者にとっても非常に重要な場になってくると力説をされておりました。生涯学習センターも新しく作りかえられますし、いろんな面でこれから古賀市のまちづくりのための重要なキーワードになってくるかなと思います。これからは皆様方に、文化芸術振興計画の進捗管理等を含めてご協力を賜りたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

4 教育長あいさつ

みなさん、おはようございます。これまで振興計画を策定するに当たって昨年まで 20 回ほどの審議会を経て、作っていただきました。他にない手法だと思います。古賀でこういったものが市民の方々の手で作られたということを誇りに思っております。本計画は性格上、計画といいながらやはり努力目標的な記述に最終的になっております。これを今後、古賀市の市民の方々、あるいは我々行政がどうひとつひとつ取り組みを重ねていくかということが問われているかと思えます。古賀の場合、文化芸術の振興においては、かなり文化協会に頼っているところがありますが、今後はこの条例、計画にありますように文化協会に入っておられない方に対してどれくらいこれを広げていくかということが課題になるかと思えます。これを周知しながら広げていかなければならないと思っております。もう一つ、昨年度、第 2 次の生涯学習基本計画を策定しました。これとあわせて行政区単位の小さなコミュニティの中に文化芸術というものがどのように入っていくか。あるいは、中コミと呼ばれます小学校単位のコミュニティとの関連もあります。やはりこのへんを活用しながら、さっきいいました市民の方々に趣旨をわかっていただき、あるいは実際に文化芸術活動をやっていただきたい。審議会は、年に何回かになると思うんですが、どうぞみなさん、市の進めていることについて忌憚のないご意見、ご助言を賜りたいと思えます。我々審議会のみなさまのご意見を頼りにしておりますので、どうぞよろしく願いいたします、あいさつとさせていただきます。

5 自己紹介

添付資料の名簿順にて自己紹介。

6 会長・副会長の選出

資料 4 ページの古賀市文化芸術振興条例施行規則第 2 条第 1 項により、会長及び副会長互選にて選出。立候補者がいなかったため、事務局より、会長に九州産業大学美術館教授の緒方委員、副会長に NPO 法人古賀新宮子ども劇場の中山委員を推薦。拍手にて承認。

7 議事録署名委員の選出

資料 5 ページの古賀市文化芸術審議会運営規程第 4 条第 2 項により、委員の中から 1 名選出。立候補者がいなかったため、事務局より志賀委員を推薦。拍手にて承認。

8 協議（以下、進行は審議会会長）

(1) 古賀市文化芸術審議会運営規程並びに傍聴要領について（山田生涯学習推進課長）

添付資料の古賀市文化芸術振興条例、古賀市文化芸術振興条例施行規則、古賀市文化芸術審議会運営規程、傍聴要領をの概要を資料に沿って説明。

古賀委員 これは文化芸術審議会の傍聴要領ですか。

事務局 はい、そうです。

緒方会長 これは協議というより確認ということですか。

事務局 はい、協議というのは訂正いたします。初めての委員の方への確認事項です。次の計画の説明も同様です。

(2) 古賀市文化芸術振興計画並びにアクションプランについて (田中主事)

本計画は市民・団体・行政が一体となって、ともに文化芸術の振興を行っていくための基本的な方向性を示した古賀市文化芸術振興計画と、本計画に基づいた具体的な実施計画としての古賀市文化芸術振興計画アクションプランです。約4年近くの期間、歴代の審議委員の方々にご尽力いただき、過去の審議会作業部会では文化芸術団体へのヒアリングや、アンケート調査等も実施し、策定前には関係団体への説明で意見徴収を行うなど、広く多くのご意見、ご協力を経てこのたび完成の運びとなりました。本計画は、文化芸術をいかして人やまちを元気にすることを目的とし、個性を起こし、新しい魅力を興し、誇りをおこすという3つのおこすをテーマにしています。植物が育っていくように、環境づくりで豊かな土壌をつくり、本計画を真っ直ぐ方向性を示す茎とし、しっかりと施策の葉を広げ、個性豊かな誇りの花を咲かせることをイメージとしています。また、最後にはそれが種となり、次世代へとこの循環を繰り返していけるよう努めてまいります。子どもから高齢者まで世代を超えて取り組める計画です。また、市民・団体・行政がおこすべき取り組みをそれぞれ記載するなど、他にない計画となっております。

緒方会長 表紙にも掘り起こしたばかりの出土品の写真が載っていますが、本計画もまだまだこれからおこしていかなければならないものです。このレイアウトについては坂崎委員にご尽力いただき出来上がったものだと伺っています。市長の言葉にもあったように、地域ごとに文化芸術活動を推進していく一つの手がかりになればいいと思います。なるべくわかりやすいものにしようと文字は減らしたり、市民の方々にも登場していただいたりして、少しでもなじみのあるアクションプランになるようにと試行錯誤したうえで完成したものです。

(3) 今年度の実実施策について (田中)

地域魅力発見講座やサロンコンサートなど、本課の新規事業を中心に、本年度取り組む大きな事業を進捗シートに沿って説明。

緒方会長 カレンダー形式にして、実施時期がわかるようにしていただけるといいのですが。
事務局 事業ごとに実施時期がわかるようにして、後日送付いたします。
加藤委員 企画展の中の、井上泰幸展、以前から取り組んでいるようですが、現在の進捗状況を教えてください。
事務局 会期を7月18日～8月31日とし、サンフレアこがギャラリーで開催いたします。歴史資料館の主催事業として開催し、付随して、市民の方々に構成される実行委員会が立ち上げられ、3回ほどのジオラマ作りなどのワークショップを行う予定にしています。また同会において、8月23日には、井上泰幸氏とともに活動してきました、三池監督にも古賀にお越しいただいてのトークショーなども考えています。
緒方会長 井上泰幸氏はどんな方なんですか？
事務局 ゴジラやラドンなど一世を風靡しましたが、それらの映画で一般的に有名なのは円谷さんを技術面で支えてきた美術監督で、古賀の薦野出身の方です。今回の企画展は、井上泰幸氏と奥様が彫刻家でございます、ご夫婦の絆を中心に井上一族をご紹介します。していきたいと思っております。
加藤委員 新聞等で作品の寄贈等が掲載されておりますが、その作品の保存先はどこですか？形として、どのへんまで進んでいますか？

- 事務局 井上ご夫婦の寄贈いただきました作品は文化財収蔵庫で保存しております。現在は、展示レイアウト等を詳しくつめて協議を進めている状況です。また、井上泰幸氏がお描きになられた絵コンテを展示紹介するために、東宝株式会社に許諾をいただく手続きを進めている状況です。
- 古賀委員 公募型補助金の募集時期、募集件数、概要を教えてください。また、支障がなければ1件あたりいくらの補助金が出されているのかを併せておしえていただきたい。
- 事務局 公募型補助金につきましては、補助金等の検討委員会、補助金計画実行委員会の中で古賀市で新たに公募型補助金を取り入れようとしてまいりました。昨年度、夏ごろに公募をかけまして、補助金の最高限度額は1団体50万円です。公募型の審議会の中でご審議いただいて、団体の決定を行いました。今年度より予算をつけまして、今年度より実施しております。何団体出たかというのは、申し訳ありません。手元に資料がありませんので、現在お答えすることはできませんが、20前後だったと思いますが、数団体はもれた団体もありました。
- 古賀委員 これは文化芸術に特化した補助金ではなく、市全体で市民活動に対する補助金という趣旨での公募ですか。
- 事務局 はい。環境、文化芸術などいくつかのテーマごとに募集をかけましたが、テーマに該当せずとも応募できる補助金でした。
- 古賀委員 団体の人材育成について、団体同士のネットワークづくりというのは大変重要なことだと思います。昨年度からの実施とおっしゃいましたが、昨年度はどのようなことを行いましたか。
- 事務局 昨年度に年3回実施いたしました。大澤寅雄氏に1時間講義いただき、もう1時間はワークショップ形式で模造紙に古賀の自慢や団体の自慢、古賀の見直すべきところ、団体の見直すべきところなどを書き出し、ともに話し合い解決策を見つけていたり、運営していくための資金獲得として、補助金の獲得の仕方や、補助金以外の資金獲得の方法などを講義いただいた講座でした。
- 古賀委員 ネットワーク作りという観点では発展性だとか可能性だとかはいかがでしたか。
- 事務局 昨年度は、1回目として交流の場や、文化芸術を語り合える場としての講座の開催でしたが、今年度は自主事業をともに運営できるレベルまで持っていけるように坂崎氏や大澤寅雄氏とともに計画している段階です。
- 中山副会長 昨年度、本講座に参加させていただき、とても良かったんですが、もっともっと参加者があつまった方がよかったんじゃないかなと。とてももったいないなと思いましたので、そこをぜひ改善していただければと思います。
- 緒方会長 過去の審議でも広報について話ができました。HP等を活用できればいいなと話しておりましたが、今年度市民に向けての広報活動についてどのようにお考えになりますか。
- 事務局 事務局のほうとしましても、検討しておりまして、フェイスブックなどを活用してはどうか等の意見も出ておりますが、行政という立場がありますので、可能かどうかを探りながらみなさんにお知らせできるような広報について今のところは内部で話し合っている状況です。
- 志賀委員 広報において、1回きりのお知らせだと不十分で、2回目のお知らせが大事だと申し出ましたが、広報係からは1回しか掲載できないといわれました。文化芸術のページにおいても、以前に比べて4分1ほどに縮小されているように感じます。文字ばかりではなく写真等ももっと有効的に使うべきであり、今の広報のあり方をあまりいいとは思いません。

河村委員
事務局 広報において予算的な制限等がありますか？
広報こがに掲載する場合は特に予算は必要ありませんが、行事予定表の裏に掲載する場合は10万円以上の費用がかかります。

緒方会長 色々な広報の手段があると思うので、アクションプランの中にもそれが盛り込まれていますが、課として整理しながらよりよい方法を模索していただき、来年度の予算等にも係わることで、次回の審議会の際に報告していただければと思います。

古川委員
緒方会長
古川委員
結城委員 古川委員、この進捗管理シートを見て、実施の施策について中学生が入ってきていないことについて何かご意見言っていただけませんか。
先日、アート・バスには参加させていただきました。
中学校相互に美術部同士の交流等がありますか。
今のところありません。
こども美術展というものを2月に行っております。9月～11月に作品募集を行っておりますが、中学生になると出品数がぐっと下がります。小学生のときに大変いい絵を描いて賞をとっているのに、とても残念です。ぜひもっと絵を出していただければと思います。

緒方会長 この審議会は色んな方々がネットワークをつくる場にもなります。また、子どもたちを育てるということはアクションプランに打ち出されていることでもありますので、乳幼児、小学生だけではなくて中学生の文化芸術への継続的な係わりを持つことが出来ることによりよい市民育成にもなると思います。

志賀委員 補助金を頂いて、夏休みこども体験教室という事業を始めますが、対象が幼稚園から中学生です。チラシは各学校に配布いたします。22項目ほどの講座から子どもたちが興味あるものを見つけてもらい、とにかく文化芸術の窓口にきてもらおうという企画です。
そういったこともやっております。

緒方会長
志賀委員 自ら配りに行くのではなく、各学校配布のための棚を活用するのはいかがですか。
やはりフェイストゥフェイスで顔を見て頼みに行かないと、なかなか伝わらない部分もありますので、自分の足で出向いていこうと思います。

緒方会長
坂崎委員 坂崎委員、何かないですか。
他の委員の方の発言と重なりますが、事業ごとに日付がわかるようにしてもらおうと見やすいかなと思います。また、大澤さんの話がでしたが、プロフィールがないとわかりづらいと思うので、そこを説明していただければと思います。補助金のことも一覧になっていたらいいかなと。

事務局 大澤さんは、東京から昨年度福岡に引っ越してこられました。ニッセイ基礎研究所にて文化芸術について研究されています。詳しいプロフィールについては後日送付させていただきます。よろしいでしょうか。

古賀委員
事務局 大澤さんと古賀市との接点はどのようなものだったんですか？
現在、北部九州文化芸術ネットワーク会議というものが行われておまして、北部九州にある文化ホールの担当者が、ホール運営等について話し合う会議ですが、昨年度の会議の際、研修会の講師として大澤さんが来られ、素晴らしい講演に心打たれた前係長と私がぜひ古賀市にとアプローチして承諾いただいた次第です。

緒方会長
米倉委員 米倉委員何かありますか。
芸術祭を見に行った際に、自分が作品の出展もしておらず反省したところです。他市の方から話を伺うと、色々な行事があつて古賀市イイねといわれます。空いている日

は出来るだけ行事には参加するようにしています。行けない日は他の人に進めたり、後日様子を聞いたりします。これない人に声をかけること、それを地域でやっていないとなかなか参加しないと感じています。また、大人だけじゃなく、子どもがもっと参加できるようにしたい。

緒方会長
事務局

区長会や分館長会等で文化芸術事業のお知らせは行われていますか？
毎月、月初めに区長会は行われています。事業全てをお知らせすることはありませんが、大きな事業については、1月前くらいに広報したいと担当課に申し出て、区長会にてお知らせすることはあります。ただし、区長会でお知らせをして回覧等で回す場合もありますが、その場合は、広報には掲載できないという制限があります。周知徹底の部分については、再度検討をして、多くの市民の方々に参加していただけるようにしたいと考えております。

志賀委員

その他にも市老連の理事会や校長会や教頭会にも出向いて行って、少しずつ効果があがっているように感じます。

中山副会長

子育て支援課との連携や託児等も入れてほしいと思います。乳幼児をもったお母様たちが参加しやすい事業を今後行ってほしいです。

結城委員

リーパスプラザには母子室はありますが、母子室で聞くのと同じ空間、空気の中で見るのとは大きな差があります。文化協会の事業では今後、託児等を考えていきたいと思っています。

加藤委員

文化芸術というのは成果というのは難しく、数字だけでは計り知れないところがあります。過去にある画家から言われた言葉があります。「文化意識が高いまちにはゴミが落ちていない」と。数字だけで評価するのではなく、色々な観点から見る事が出来ると。事務局は何のため事業するのかなどをしっかり押さえて取り組む必要があります。

緒方会長

もちろん、何人来たという量的な評価も必要ですが、質の確保をより前に出しながら、市民の方々に良質な文化芸術を提供していくという気持ちで事務局にご配慮願えたらと思います。

資料の出し方について、1年間の流れを説明するときには実施時期が必要です。また、新規事業においては別紙として企画書等を添付していただくことより充実した審議が行えると思いますので、今後検討していただければと思います。

9 その他の事項

・第2次古賀市生涯学習基本計画及びダイジェスト版について

生涯学習に大事な視点として、第1次計画は人づくりとコミュニティづくりを目標に挙げていましたが、第2次計画では生涯学習＝学びが持つ生涯学習が持つ本質的な意味や力に立ち返り、生涯学習社会の実現をするための基本的な方向性を示すという形で提案をしております。知識と体験と対話の3つの要素を伴った学び、この学んだことを実際に生活や活動で実践し、その実践の中から新たな学びを得ていくという、学びと実践の循環を生み出す生涯学習を求めています。また、市民の自主的な学習と実践、それを支え、地域へとつながる仕組みづくりとして、小コミュニティ（46行政区）、中コミュニティ（小学校校区コミュニティ）、大コミュニティ（市全体）といったエリアごとの生涯学習振興を行います。特に小コミュニティでは、46行政区ごと、自治公民館は住民自治の拠点であると同時に地域の学びの拠点です、市としては公民館活動を通じて住民が参加し、交流が生まれるようなふるさと作りをこれからも支援していきます。

・笑顔のつどいについて

社会教育委員の会議が主幹で行います。世代を超えた生涯学習活動を実践されている方々の交流の場を設けたい、第2次の基本計画を市民の方々に知ってもらいたいという二つの目的を持ち、6月15日リーパスプラザで行います。ぜひご参加ください。(別紙チラシ添付)

・文化財

6月1日(日)に自然史歴史講座の第2回目を開催いたします。今回は、コスモス市民講座と合同で行います。会場は、サンフレアこが2階の視聴覚室で、船原古墳から出土しました金銅装馬具のことと、それにまつわる国際交流の講演会です。福岡大学の桃崎教授を講師として招いております。桃崎教授につきましては、船原古墳の発掘調査に当初から関わっていただいております。出土品の分析にも大きく関わっていただいております。朝鮮半島との係わり等を持論を交えてお話をさせていただく予定です。

もう一点、船原古墳の出土品の解析調査を県立九州歴史資料館で進めていただいておりますが、同館で作成していただいておりますパネルを古賀市に譲り受けることが今回決まりましたので、歴史資料館またはギャラリーを活用して市民のみなさまにお知らせしていきたいと思っております。

志賀委員 大人のほうは盛り上がっておりますが、子どもたちが知らないのもっと子どもたちへの周知をしていただければと思います。

事務局 検討していきます。

10 閉会の言葉

緒方会長 古賀市文化芸術振興計画及びアクションプランは10年計画となっておりますが、今日はその10年の第1歩をみなさんと一緒に踏み出したと思っております。今後、アクションプランに沿った行政政策が展開されていくと思っております。それにあたっては、市民の方々の参画がなくしては十分なものにならないと思っておりますので、年数回会議がありますが、審議会につきましても、委員のみなさんに進捗などをそれぞれ見ていただき、意見を言っていただければと思います。27年度の予算に我々の意見が幾ばくか組み込まれる中で新しい政策が出来ればいいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。これにて本日の文化芸術審議会を閉会いたします。